

日本ロレンス協会 The D. H. Lawrence Society of Japan
日本ロレンス協会第39回大会プログラム

日時：2008年 6月21日（土）、22日（日）

場所：松山大学 本館6階ホール

控え室・休憩室：本館6階小会議室

発表者控え室：本館7階会議室

住所連絡先：〒790-8578 松山市文京町4-2 Tel. 089-925-7111（代表）（岡山勇一研究室）

第1日目 6月21日（土）

受付：午前9時より

開会の辞：会長 鈴木俊次（愛知学院大学教授）（9：30-9：35）

開催校挨拶：松山大学学長・理事長 森本三義（9：35-9：40）

研究発表 1 9：40-10：15

司会 慶應義塾大学教授 武藤浩史

『チャタレイ夫人の恋人』における踊りーその機能と意義

金城学院大学大学院博士課程 井出あかね

研究発表 2 10：15-10：50

司会 成蹊大学准教授 遠藤不比人

"Birth Control" in Lady Chatterley's Lover

神戸女学院大学大学院博士課程 角谷由美子

研究発表 3 10：50-11：25

司会 成蹊大学准教授 遠藤不比人

"Make a new England: Away with little homes!" — 『建築評論』、都市計画、戦間期の
ロレンス

成城大学准教授 木下誠

小休憩 11：25-11：30

韓国ロレンス協会特別招待講師 講演 11：30-12：10

司会 京都橘大学教授 浅井雅志

'Imaginative Line' and History : D. H. Lawrence's Sketches of Etruscan Places

Professor See-Young Park (Hankuk University of Foreign
Studies, South Korea)

昼食:松山大学生協食堂他 12：10-13：30

研究発表 4 13：30-14：05

司会 久留米大学教授 飯田武郎

『キツネ』(The Fox) における語りの構造

名古屋市立大学非常勤講師 石川勝久

小休憩 14：05-14：10

若手ワークショップ

「ロレンスと書簡—ロレンスは書簡をどう書き、我々はそれをどう読むか」
14：10-17：10

*書簡は石炭となるかダイヤモンドとなるか—ロレンス研究に書簡を利用する際の危険性と可能性

司会・講師 熊本保健科学大学准教授 岩井学

*ロレンスが書簡を発信したイングランド各地の現在

講師 福井高専准教授 原口治

*書簡に見るロレンスとAINシュタインの「出会い」

講師 東京女子大学大学院博士課程 星久美子

*『息子と恋人』におけるジョージ・エリオット文学、ニーチェ哲学の影響
—初期のロレンス書簡を手がかりに

講師 神戸女学院大学大学院博士課程 藤原知予

総会 17：10-17：50

懇親会 18：30-21：00 会費；¥5,000（大会当日受付でお支払い下さい）（会場：伊予鉄会館クリスタルホール）

第2日目 6月22日（日）

公開シンポジウム

<共催：坂の上ミュージアム> 9：30-12：30（本館6階ホール）

「司馬遼太郎と D. H. ロレンス—紀行文学を巡って」

司会 松山大学教授 岡山勇一

*司馬遼太郎さんと旅

講師 坂の上の雲ミュージアム館長 松原正毅

*司馬遼太郎の見た明治

講師 作家・日本大学美術学部教授 佐藤洋二郎

*司馬遼太郎／D. H. ロレンスのアメリカ、そして夏目漱石の松山

講師 日本大学芸術学部教授 立石弘道

閉会の辞：副会長 武藤 浩史（慶應義塾大学教授）（12：30-12：45）